

# 症 候 学

科目責任者 青 木 琢  
学年・学期 4 学年・前期

## I. 前 文

これまで各疾患毎に学んできた知識は学生諸君の「知識の引き出し」に納められてきたと思う。この知識の引き出しから常に必要な知識を取り出し、問題を解決する能力を取得することが臨床の間では大変重要である。この科目では、各疾患単位で学んできた知識を症候の面からもう一度見直すことにより、問題解決の能力を育成することと臨床実習に必要な基本的診療能力を学習することを狙っている。

「医学教育モデル・コア・カリキュラム」に従えば、E 診療の基本（1 症候・病態からのアプローチ、2 基本的診療知識）をほとんどすべてを網羅し、臨床実習の準備的な学習を含んでいる。

## II. 担当教員

内科学（心臓・血管）	（豊 田 茂）	内科学（消化器）	（入 澤 篤 志）
内科学（血液・腫瘍）	（三 谷 絹 子）	内科学（腎臓・高血圧）	（頼 建 光）
内科学（神経）	（鈴 木 圭 輔）	内科学（内分泌代謝）	（麻 生 好 正）
内科学（呼吸器・アレルギー）	（仁 保 誠 治）	皮膚科学	（井 川 健）
小児科学	（吉 原 重 美）	外科学（上部消化管）	（小 嶋 一 幸）
外科学（肝・胆・膵）	（青 木 琢）	整形外科	（種 市 洋）
泌尿器科学	（釜 井 隆 男）	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	（春 名 眞 一）
産科婦人科学	（三 橋 暁）	救急医学	（和 氣 晃 司）
産科婦人科学	（成 瀬 勝 彦）	看護学部	（宮 本 雅 之）
埼玉医療センター・消化器内科	（玉 野 正 也）	内科学（リウマチ・膠原病）	（池 田 啓）
埼玉医療センター・脳神経内科	（宮 本 智 之）		

## III. 一般学習目標

信頼される医師を目指し、臨床の場に則した能力を得る。

## IV. 学修の到達目標

この科目は3部分より構成されている、即ち、1) 症候からのアプローチ、2) 診療の基本となる技能、3) 基本的診療知識。それぞれの目標について掲げると、

- 1) 症候を理解し、症候から患者の状況を把握出来る。
- 2) 臨床実習に必要な基本的知識、即ち、エックス線その他画像診断、輸液、輸血、心雑音など、臨床の場で直ちに必要となることを身につける。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1 : 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))  
2 : ディスカッション, デイバート 3 : グループワーク 4 : 実習, フィールドワーク 5 : プレゼンテーション  
6 : その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	5	30	火	2	めまい	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 春 名 眞 一	1

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブラーニング
2	5	31	水	3	食思不振, 下痢・便秘	埼玉医療センター・消化器内科 曾我幸一	1
3	6	1	木	5	チアノーゼ, 胸痛	内科学(心臓・血管) 西野節	1
4		1	木	6	ショック	救急医学 和氣晃司	1
5		2	金	1	出血傾向	内科学(血液・腫瘍) 中村由香	1
6		2	金	2	血尿, 尿量, 排尿の異常	泌尿器科学 木島敏樹	1
7		8	木	6	蛋白尿, 浮腫	内科学(腎臓高血圧) 藤乗嗣泰	1
8		12	月	1	悪心・嘔吐, 嚥下困難・障害	外科学(肝・胆・脾) 白木孝之	1
9		12	月	3	発疹	皮膚科学 井川健	1
10		12	月	6	意識障害・失神	埼玉医療センター・脳神経内科 宮本智之	1
11		12	月	7	呼吸困難	内科学(心臓・血管) 金谷智明	1
12		14	水	1	関節痛・関節腫脹, 腰背部痛	整形外科 稲見聡	1
13		14	水	2	咳・痰, 血痰, 咯血	内科学(呼吸器・アレルギー) 清水泰生	1
14		19	月	2	発熱	内科学(リウマチ・膠原病) 前澤玲華	1
15		20	火	1	小児の症状1	小児科学 小奥谷真由子	1
16		20	火	2	小児の症候2	小児科学 小佐藤雄也	1
17		20	火	3	小児の症状3	小児科学 小奥谷真由子	1
18		22	木	2	腹痛	外科学(上部消化管) 中村隆俊	1
19		22	木	3	貧血	内科学(血液・腫瘍) 佐々木光	1
20		26	月	6	黄疸	内科学(消化器) 山宮知	1
21		27	火	4	全身倦怠感, 肥満・やせ, 脱水	内科学(内分泌代謝) 城島輝雄	1
22		28	水	1	動悸及び胸水	日光医療センター・循環器病センター 大谷直由	1
23	7	3	月	4	月経異常	産科婦人科学 久野達也	1
24		6	木	4	けいれん, 運動麻痺・筋力低下	看護学部 宮本雅之	1
26		7	金	3	吐血・下血腹部膨隆・腫瘍	内科学(消化器) 永島一憲	1
25		7	金	4	頭痛	内科学(神経) 鈴木紫布	1

#### VI. 評価基準(成績評価の方法・基準)

出席についてチェックを行い, 出席率は受験資格の要件とする。評価は, 各担当領域の教員の出題の試験により行う。60点以上を合格とする。アクティブラーニングに対する評価は科目講義終了後の試験時に総合的に評価する。

Ⅶ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP    ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

Ⅷ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

分野が多岐にわたるので、各科の教員の判断に委ねることとする。フィードバックは課題による。

Ⅸ. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間 \*（ ）内は必要な時間の目安

各講義前に配布される事前資料を学習する（30分）

講義に配布されるレジュメをもとに事後学習を行う（30分）

Ⅹ. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。